

研究テーマ 「確かな読み・豊かな読みの力をつけるための指導の工夫」

1 はじめに

上記のテーマを掲げて4年目になる。今年度も「読みの力」を高める指導のあり方を探ることとし、それぞれの部員が研修を深めた。

2 研究の概要

4月21日（木）第1回国語部会 組織の編成・役割、事業計画の作成

6月8日（水）第2回国語部会 研修会

講演テーマ「確かな読み・豊かな読みの力をつけるための指導の工夫」

講師 新潟市教育委員会 指導主事 斎藤 純一様

11月29日（火）実践報告会

3 研究の実際

(1) 第2回国語部会（研修会）

新潟市教育委員会指導主事 斎藤純一様より、新指導要領と研究テーマに沿った内容について、部員がペアで考えたり全体で話し合ったりする参画型の講演でとても充実した会であった。

① 新指導要領について

各学年における「C読むこと」の指導事項をペアで読み合い、新たに加わった文言について発表し合った。「自分の考えの形成及び交流に関すること」や「目的に応じて本を読むこと、高学年は比べて読むこと」の指導事項について解説があった。

② 「ばらの谷」の実践を通して

単元名「物語が強く語りかけてきたことを考えながら読もう」の5/6時間目の主張から、部員自身が考え話し合い、学ぶことができた。

- ・時間の最初に自分の考えを書かせ、学習後もう一度自分の考えを見直す時間を設けることで、自分の考えをしっかりとめさせるようにする。
- ・構造的な板書にすることで、一人一人の考えの違いが全体で共有できるようにする。
- ・全体の意見の傾向を整理してから、それに対する感想を発表し合うことで、時間の最初にもったそれぞれの考えをさらに深めることができるようにする。

③ 正確に読むということについて

「正確に読む」とは、いつもの一つの場面だけを限定して読むことではない。他の場と関連付けて読むこと、他の作品と比べて読むことである。

(2) 第3回国語部会（実践報告会）

一人一人授業実践を持ち寄って、上学年部と下学年部に分かれ発表会を行った。実際に授業をしたことをもとに、言語活動や課題提示、ワークシート、視覚的掲示物や板書、学習形態の工夫等の発表があった。普段の学習の進め方で困っていることや特別支援の子どもの立場に立った授業の進め方についての発表もあった。

最後は、学年部ごとの報告をした後、「しっかり聞かせるための有効な手立て」や「音読のさせ方」について話し合い、各自の実践のよさを共有することができた。

4 終わりに

研修会や実践報告会を通して、「確かな読み・豊かな読み」について考えを深める事ができた。「国語の力」が求められている中で、子どもたちの学びの基本となる「読みの力」を高める研鑽をさらに積んでいきたい。